

## 中国の印文(いんぶん)土器が示すもの

古代中国で発達した印文土器が日本の五島列島で出土している事実を、「日本の古代 倭人の登場」で森浩一氏が述べている。この印文土器は日本の縄文晩期・弥生早期に中国の華南沿岸地帯（江南地方）で発達し、土器の表面を「叩き目を残したもの」で日本の古墳時代に発達した須恵器の源流と言えるものであるそうです。（森浩一）

日本に伝播し出土したこの印文土器は、沖縄・大分・長崎＝五島列島福江市戸岐浦の3箇所です。「日本国家の起源」の著者松野尾辰五郎氏＝村山美枝子氏の尊父もこの本の中で戸岐は海洋民の拠点地であったとしての論証を進めている。私は水耕稲作の日本への伝播は中国の江南地方から親潮＝暖流に乗って北上し、北部九州（五島列島）に先ず伝播したとする通説（私はそのように信じている）に合致します。

つまり稲（米）はこの印文土器（中国製）の器（うつわ）や乾燥させた瓢箪（ひょうたん）等の容器で運ばれ、米は稲作として定着発展し今日に至り、器は大切に使われましたが破損して、遺物として九州各地（3箇所）にて出土したものと私は思います。印文土器の発達した中国華南沿岸部とその年代が水耕稲作の日本への伝来と一致し、その器（うつわ）の破片が五島列島の戸岐浦で出土したのは何よりの物証と信じます。岡山歴史研究会「ドンザの会」のグループの例会で「五島列島に実在した高天原」を学ぶ仲間と別れて帰宅し、手にした本に新しい発見がありました。

2012.24.9.28 早朝 山崎泰二